

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成22年11月11日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学習療法の実施 温泉 栄養管理された食事 医療機関との連携 他の介護施設との連携
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の地域における医療・介護体制は拡充され、代表者や関係者の熱い思いがグループホームを始めとする「複合型高齢者施設」の開所となって表れている。グループホームを預かる管理者はこれまでの経験を活かし、理念に盛り込まれた“チームワーク”の重要性を十分認識し機会あるごとに職員と会話し相談事に応じている。“ケアに携わる側が心身ともに健康でなければ支援は出来ない”とし、職員の明るさがそのまま入居者の生活に関わることを伝えている。開所間もないホームであり、出来ない点を率直に語り今後の課題として真摯に受け止めている。入居者は城跡の見える河川沿いまで散歩に出かけたり古くからの町並みを散策し慣れ親しんだ風景の中で穏やかな日々を過ごしている。医療と介護福祉の壁を越え一人ひとりに充実した支援の継続が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作った理念を施設内に掲示して朝礼時に唱和している程度である。	開所直後管理者と職員が話し合い、ホームが目指すケアの柱として`笑顔` `自己決定` `地域交流` `チームケア`の4項目を理念として掲げている。理念をリビング内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和しながら月一回のミーティングで一つ一つの言葉の意味を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭など行事を行って地域の人にも施設に来ていただく機会を設けている。ボランティアスクール体験などの受け入れもしている	法人全体の夏祭りや文化祭にチラシを配布したり、玄関先に手作り看板を設置し、地域の人々に来園の機会を作り交流の一環としている。社協主催のボランティアスクール体験や職場体験の小、中、高校生を受け入れ、管理者がキャラバンメイトとして地域へ出向き講義を行っている。地域神社のお参りは入居者の楽しみとなっており職員と共に定期的に出掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	先に行われたボランティアスクール・文化祭で認知症サポーター養成講座を実施した。また、管理者は外部にもキャラバンメイトとして講義を担当している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者・サービス実施状況を報告している。地域での祭りなどの情報を得て、外出の機会としている。	開所以来3回の推進会議を実施している。行政、社協、包括センター、民生委員、家族代表者、入居者が参加してホームより運営や活動状況を報告し、参加者より地域行事の情報がもたらされ意見交換等が行われている。第一回会議で夏祭り開催について参加者より意見が出され7月に実施に至っている。	開所間もないホームであり推進会議をどの様に運営に生かして行くべきかを職員がしっかり認識し、議事録の取り方や参加出来ない家族への開示方法等の検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議に参加してもらっている。認知症サポーター養成講座には包括支援センターと共同して講義をおこなっているが、十分とはいえないと思う。	行政や包括センターから推進会議への参加があり、情報交換や入居に対する相談等に応じてもらっている。文化祭当日は市のシルバー人材センターの協力でバザーに手作りうどんや弁当を出店し好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り外利用者の動きに合わせた介護に努めているが、早朝・夜間などはエレベーターの電源を切る、または玄関の施錠を行う時間がある。十分とはいえない。	ホーム主任が高齢者虐待に関する外部研修に参加し、資料を元に職員に傳達している。職員は入居者に敬意を持って対応し、難聴の方へも大声で話すのではなく、ボードを使い分かりやすく筆談にて対話をしている。早朝、夜間帯のエレベータ使用や施錠については考慮の必要があるとしている。	建物3階にあるホームはエレベーターの使用が不可欠であるが、利用出来ない時間帯や、玄関施錠の時間について今一度家族に説明される事が必要と思われる。身体拘束についてマニュアルの整備も期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	先に行われた虐待に関する研修に参加したが、徹底しているとは言えない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は様々な研修に参加したことがあり、実際にケースに当たったことも多いが、新規事業所としては研修等への参加実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけて納得していただいているものと思っているが、十分であるかどうかは自信がない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族の参加があるものの、実践できているとはいえない。	入居者自身の希望で有料ホームへの移動を支援したり、個々が希望される買い物や外食支援に出来る限り応じて行きたいとしている。推進会議や来園時、本人家族の意見や要望を聞く機会とし話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員全員と個別に面接して意見を聞く機会を設けている程度	管理者は職員に対し、ケアに関する事、設備に関する事、職員間の事、資格取得に関する事等気になる事があれば何時でも相談に応じ個別に話を聞く機会を作っている。会話の中で管理者は入居者に対する言葉の掛け方や状態変化の見分け方等を指導し職員から上がった介護用品や備品の購入、設備の補充などに早急に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面接、職員会議の機会にいろいろな意見を聞いている程度。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修・介護職員基礎研修を実施している。また、外部の研修会の情報を掲示して参加を促している。また、専門誌を定期購入し、職員が勉強できる環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加しているが程度であり、現在のところ積極的取り組みはできていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に入居時の状態をよく知るためにアセスメントをとり、本人の不安がなくなり安心されるようにコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの希望や要望等の話を聞き、その内容に近づけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎週木曜日にセンター内の担当者会議に参加し、他のサービスにもつながるように対応している。また管理者は関連病院や施設との連携会議に参加して情報を収集し、適切なサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を尊厳し、本人の意思を尊重しながら日常生活ができるように努力している。洗濯ものたたみや掃除、調理を一緒に行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族がいつでも面会できるように環境を整え、遠方のご家族には毎月のお便りや電話の取り次ぎを行い本人との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の故郷へ出向き昔のことを思い出していただくようにしている。また、本人様の勤めていた場所などに散歩のついでに立ち寄りなどしている。近所の祭りに参加している。	入居者の故郷訪問に同行したりホーム近くに勤務されていた入居者と共に職場を訪れる等の支援している。行きつけの食堂に行きたいという入居者の思いに応え早めに実現したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を大事にし、同じテーブルでの作業や食事の配置をし、トラブルの軽減を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に老人保健施設や有料老人ホームへ入居された人がいるが、フォローするにいたっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、できる限り本人の希望に沿うような生活を支援している。個別ケアも話し合いをして行っている。	入居者の声に日頃より耳を傾け思いや要望を引き出している。家族に話を聞きながら一人への生活歴を把握し、個別ケアの実践に取り組んでいる。チリ出しを進んで手伝われる入居者やエプロン姿で台所に立ち食事の準備をされる方等それぞれの思いを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネやご家族、他のサービス担当者からの情報をもらい、これまでの生活内容を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録により、一人一人の心身状態や生活動作、心理面を把握し申し送りやホーム内のノートに記入しスタッフ全員で把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に昔の話、以前の状態を聞きながらケアに取り入れている。ケース会議にて訪問看護と話し合いを行っている。月に一度グループホーム職員との話し合いを行っている。	開所間もないことから一人ひとりへの入居者と深く関わり思いや意向を引き出しながら、家族や入居前の利用施設関係者等から情報を収集しプラン作成に生かしている。一人の入居者に二名を担当職員とし日々の気づきや状態変化を申し送りノートに記録し職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録をとっている。職員間で情報を共有できるように朝礼時に申し送りの時間を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り本人・家族の状態に合わせ又その時その時の問題点を相対的に見るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じて社会資源の把握につとめており、施設内にとどまらず、地域の行事に参加し、精神的な面で気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て、同じ法人内の医療機関をかかりつけ医としている。定期受診などは職員が同行している。	入居時に法人内の医療機関の説明を行い、二週間に一度の受診や協力歯科医院の場合はホーム職員で対応している。受診後は家族へ電話や面会時、手紙で結果を報告し安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきや変化を記録に残し、週一回の訪問看護師の来設時に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を届けている。病院のソーシャルワーカーと随時相談している。また、法人内の入・退院調整会議に参加して関係づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在本人家族との話し合いは行っていないが、何かあった場合、訪問看護と連絡を取っている。	ホームの方針として医療ニーズが高くなった場合は医療機関での対応とする事を、その時点で家族に伝えている。今後は入居時や家族の集まる機会に本人・家族の意向を確認しホームのできる終末期の対応について説明していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、研修に参加し全員が習得できるよう努力していくが、すべての職員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがある程度であり、現在のところ、十分ではない。	今年度5・10月に避難・消火訓練と、AED使用に関する研修会を実施し共有に繋げている。	今後は自主訓練の他、地域の協力の呼び掛け、消防署参加の総合訓練、火災以外の災害マニュアルや訓練の実施、備蓄の準備にも期待したい。又、ホームは建物の三階にあることから、訓練等の災害対策について家族に報告する事で安心に繋げて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の皆さんの人格を把握し、ほこりやプライバシーを傷つけないように、その人その人に合った声かけをし、対応している。	大先輩として尊敬の念を持った声掛けや対応に努めている。呼称も本人・家族の思いや意向を確認し、姓や名前、時には馴染み深い旧姓などその時や個々に応じ支援している。	管理者は今後尊厳や・守秘義務に関する研修会を開催したいとしており、実現により職員間の共有に繋がることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、本人の思いや希望を聞き入れ意思を尊重し可能な限り自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースになるだけ合わせようと努力しているが、十分でない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問で来られる美容師によるカットはホーム内で職員にて髪染めも行いお洒落ができるように支援している。また、御家族が美容院へ連れて行かれることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の好みのおかずは出せていないが職員と一緒に昼食や夕食づくり、おかずのつぎ分けは行ってもらっている。	法人の栄養士の作成した献立を使用し、入居者の希望やできることを一緒に行っている。訪問当日もエプロンをつけ手際よく調理される入居者の姿があった。職員は入居者の見守りを行い交替で食事休憩を取っている。誕生会の手作りケーキを嬉しそうに手に持たれる姿や十五夜団子作りを楽しまれる様子など記録より確認された。	今後は味や量の確認も兼ねて、職員も交代で入居者と同じメニューを食べる事で、気づきや思いを共有できると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入しパソコンへも記録している。また利用者一人一人に合わせ、おかずを一口大にしたり糖尿病の方には主食の制限をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、口腔ケアを実施している。拒否や支持が必要な方へも声かけの工夫や歯ブラシを手渡すようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のトイレチェックを行い時間・排泄パターンを観察し、できるだけトイレを一人でできるように声かけ、おむつの検討を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導によりトイレでの排泄支援に努めている。夜間使用したポータブルトイレは洗浄や昼間の日光干しにより清潔に努め気持ち良い排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護にアドバイスをもらいながら便秘の対応を行っている。個人の排便量・水分量をチェックしながら下剤の検討を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴状態を把握するために月水金・火木土と入浴メンバーを決めているが体調や希望に合わせて入浴できるシステムにはなっている。ほぼ本人に声かけし希望を聞くようにしている。個浴を行っている。	基本的に週三回の入浴としているが希望に応じその日以外でも支援している。必要に応じシャワー浴や清拭を取り入れ、拒否の方へも時間をおいたり、職員とのコミュニケーションにより支援し清潔保持に努めている。温泉を取り入れた浴室にはひのき風呂や重度化に備えリフト浴も設置されている。	この冬はゆず風呂の計画や、今後は同法人の温泉大浴場使用も検討されており、入浴支援が更に広がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望・体調に合わせて昼間であっても寝たい時に寝て頂いている。夜間寝付きが悪い方は眠剤の検討を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の症状の変化はパソコンでいつでも見られるようになってきている。くすりの処方箋はファイルに保管し、職員が変更時にみるようにしている。訪問看護からの助言をいただき夜勤者が次の日の服薬をセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔料理をされていた方は積極的に料理の手伝いをしていただいている。料理が難しい方であっても皿への次ぎ分けをしていただくなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務的にその日に外出支援は難しい時があるが、できる日に市内・町へ外出する。計画を立て出ている。町のイベント・行事などにはできるだけ参加している。家族へも参加していただけるように声かけしている。	近隣や敷地内の散歩・ごみ出し、多目的ホールにリハビリを兼ねた外出など日常的に支援している。又、法人の車を使用し車イス利用者も一緒に花見(ハス・菖蒲)や祭り・SL見学・神社参拝の他、季節の衣類や日用品の購入など個別の外出も支援している。家族の協力により、衣替えの為の帰宅や外食も実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は本人様がお金を所持して頂いてる。ホームにてお金を管理している人でも受診時などに職員と一緒に支払いを行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望やご家族からの電話の取り次ぎはおこなっている。ご家族様へは毎月GH広報として写真付きでお手紙をだしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内の模様替えや入居者と一緒に季節のカレンダーの作成を行っている。	街中が望める三階にあるホームリビングには入居者と職員が作成したカレンダーの掲示や寛ぎのソファが設置され、オープンキッチンからの調理の音や匂いなど穏やかな空間である。トイレや浴室をはじめ共用空間は清潔に保たれ、温・湿度計の設置により空調機を操作し健康管理や居心地の良い空間作りに努めている。	目的に応じたBGMの検討や、共用空間(リビング・トイレ等)へ季節の花や植物を飾ることで更に穏やかな雰囲気につながっていくと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下などにソファを置き、いつでも語り合えるようなくつろげる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や衣装ケースは、御家族と相談し、持ってこられる範囲で持ち込んで頂いている。ソファ、椅子なども本人と話をしながら居室作りをしている。	エアコン・ベッドが設置された居室は広さや採光も十分であり衣装ケースや家具・位牌・衣類掛けなどが持ち込まれている。職員が折り紙で作ったクリスマスリースや絵を描く事が好きな入居者は自分の作品が入口に飾られている。	入居時に持ち込みの品については説明が行われているが全体的に馴染みの品は少ない様である。壁の材質により貼り紙や掲示は困難であるが、今後も家族の協力や職員のアイデアにより居心地の良い空間となるよう尽力していきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の認知度に合わせ、といに近い居室への移動やトイレや洗面所などの表示をわかりやすい場所に貼っている。		